

あいちの住宅に必要なこと

—— 基礎知識編 ——



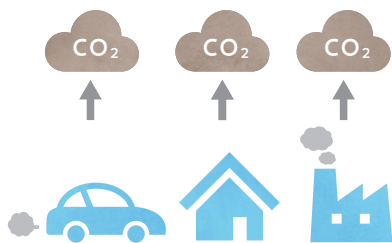
1 カーボンニュートラルに向けて、住宅も取組が必要なの？

地球環境を守り、次世代へつなぐために、賢い選択を！

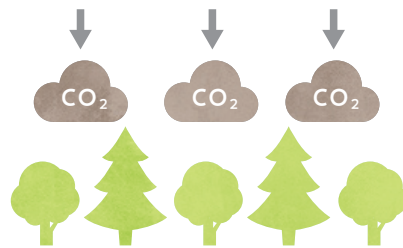
2020年10月に私たちの国は、2050年にカーボンニュートラルを実現することを宣言しました。しかし、その達成は容易ではなく、大きな変革が必要となります。2021年4月には、2030年度に温室効果ガス^用を2013年度比で46%削減し、更に50%に向けて挑戦を続ける方針も示されました。

カーボンニュートラルとは

人間の活動による温室効果ガスの排出



森林などによる温室効果ガスの吸収



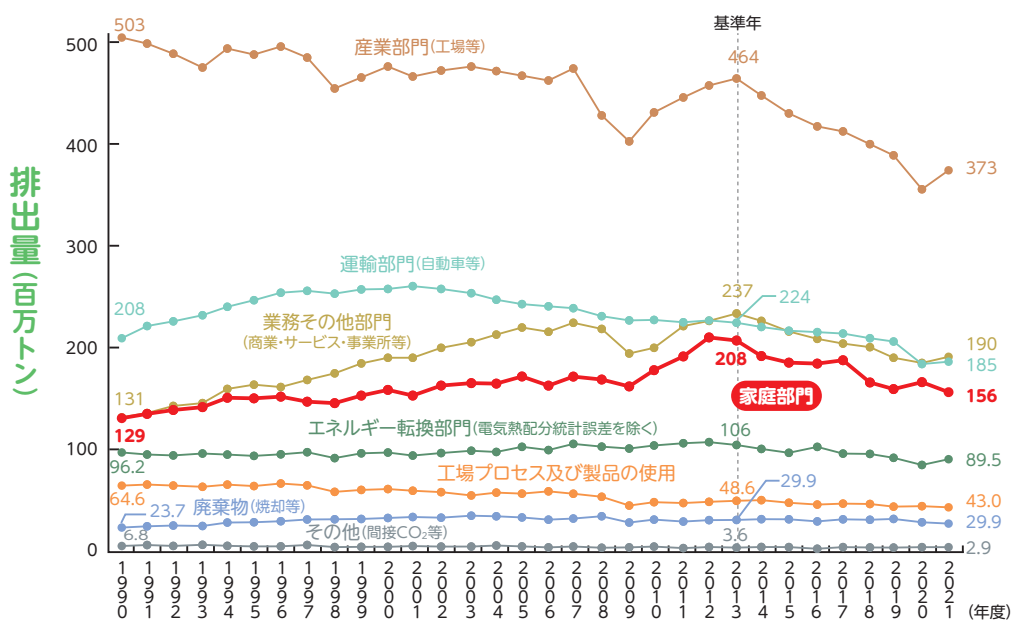
差し引きゼロ



私たちの国は、温室効果ガスの削減に取り組んでおり、1990年度からの温室効果ガス削減の推移では、2013年度をピークにその後は減少傾向にあります。2050年にカーボンニュートラルを実現するためには、家庭部門における更なる取組が必要^{*1}です。

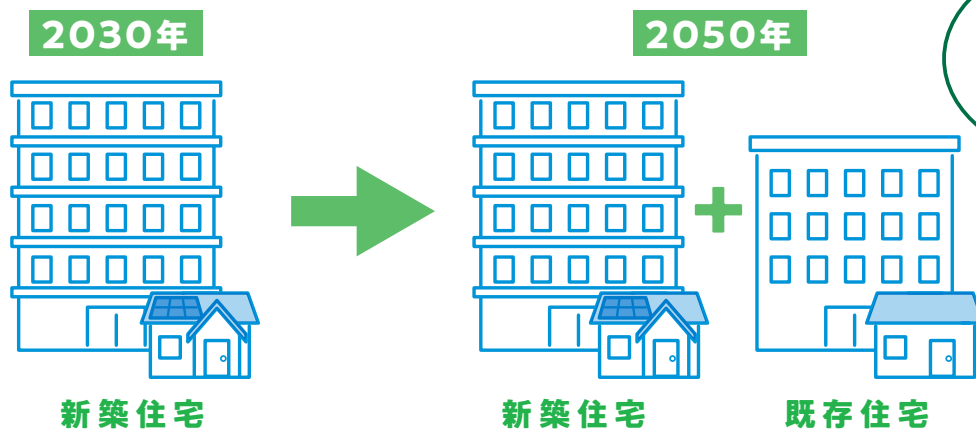
*1 家庭部門では2030年度に2013年度比で約66%削減が必要

二酸化炭素の部門別排出量の推移



資料：2021年度の温室効果ガス排出・吸収量(確報値)について(環境省)

2021年度には、国土交通省、経済産業省、環境省により「脱炭素社会に向けた住宅・建築物の省エネ対策等のあり方検討会」が開催され、目指すべき住宅の姿として以下の目標が示されました。



新築住宅について

- ZEHレベルの省エネ性能^{※2}を確保
- 戸建住宅の6割に太陽光発電設備が導入

- ストックの平均で、ZEHレベルの省エネ性能^{※2}を確保
- 導入が合理的な住宅において再生可能エネルギー^④の導入が一般的に

※2 ZEHとは「使うエネルギー≤太陽光発電などで創るエネルギー」となる住宅のこと。詳しくは4ページまたは61～63ページ参照
 「ZEHレベルの省エネ性能」については61～63ページ参照

私たち一人ひとりの行動が、地球温暖化対策につながるということを忘れずに、地球環境を守り、次世代へつなぐために、今、賢い選択をしましょう。



SDGs—持続可能な開発目標の 実現には住宅分野の取組が重要

エスディージーズ
 SDGs(持続可能な開発目標、Sustainable Development Goals)は、2015年9月の国連サミットにおいて採択されたもので、17のゴール(開発に向けた意欲目標)と169のターゲット(計測可能な行動目標)が掲げられています。

17のゴールには 3「すべての人に健康と

福祉を」、7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、11「住み続けられるまちづくりを」、13「気候変動に具体的な対策を」など住宅分野と関連が深いものが多くあります。それらのゴールの取組を理解し、SDGsの実現に向け、住宅分野の取組を深めていきましょう。

SDGsとは

- 2030年に向けた国際目標
- 先進国・途上国全ての国に適用
- 17のゴールと169のターゲット
- 232の指標による達成度の評価

住宅分野と関連が深いゴール

3 すべての人に健康と福祉を 	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 	11 住み続けられるまちづくりを
12 つくる責任 つかう責任 	13 気候変動に具体的な対策を 	15 陸の豊かさも守ろう 	

省エネで地球を救おう
—ZEH、さらにはLCCM住宅の普及をめざして—

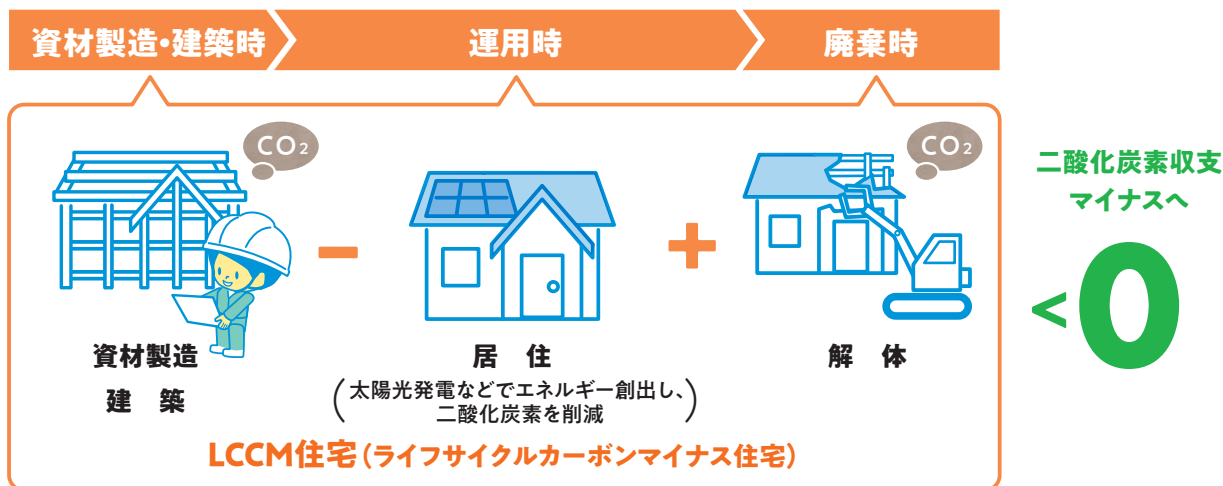
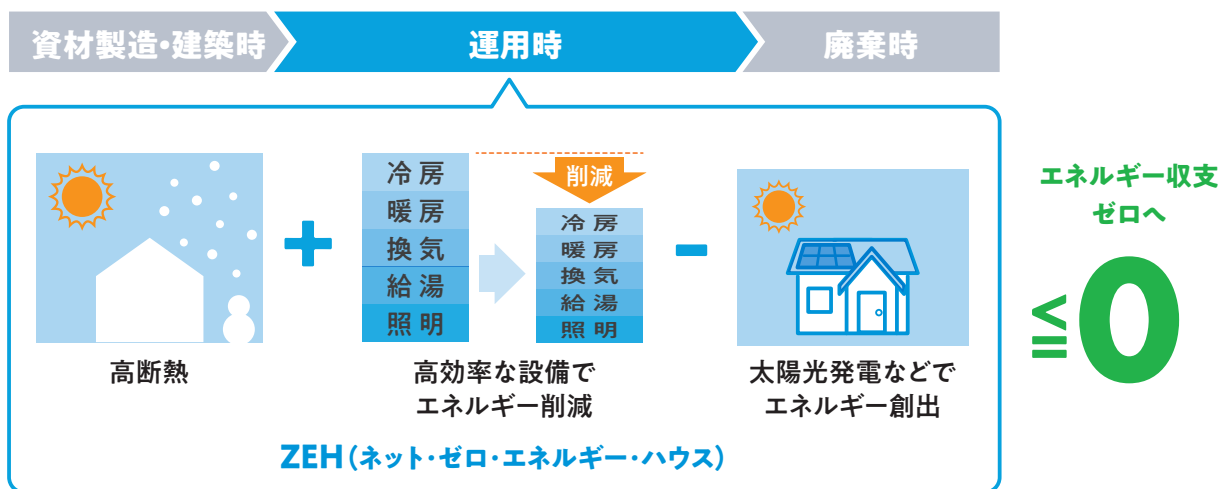
ZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)とは、断熱性能などを大幅に向上させるとともに、高効率な設備の導入によって大幅な省エネルギーを実現した上で、太陽光発電設備などの再生可能エネルギーの導入により、年間のエネルギー消費量の収支をゼロとすることを目指した住宅のことです。

また、LCCM住宅(ライフサイクルカーボンマイナス住宅)とは、資材製造や建築の段階から廃棄に至るまで、できるだけ二酸化炭素の排出を抑制し、太陽光発電など再生可能エネルギーの導入により、住宅のライフサイクルを通じての二酸化炭素の収支をマイナスにする住宅です。

2050年にカーボンニュートラルを実現するためには、ZEHやLCCM住宅の普及が必要だと言われています。ただ、LCCM住宅は最先端の技術を組み合わせる必要があるため、専門的な判断が必要です。そこで、一般財団法人住宅・建築SDGs推進センターでは、LCCM住宅の普及促進のために「LCCM住宅認定制度」を開始しています。

ZEHやLCCM住宅は、光熱費を節約できるとともに地球環境にもやさしい素晴らしい住宅です。住宅を考える際には、ぜひZEHやLCCM住宅を選択肢の一つとして検討してみましょう。

ZEHとLCCM住宅の関係



2 カーボンニュートラルに向けて、どんなことをする必要あるの？

カーボンニュートラルは、他人ごとではなく自分ごと！

断熱性能が低い住宅では、断熱性能が高い住宅に比べて冷暖房エネルギーの消費量が大きくなります。冷暖房エネルギーを削減するために最優先で取り組むべきなのは、高断熱化であり、断熱性能が低い既存住宅は断熱改修^用が必要です。

断熱性能が低い既存住宅の目安

住んでいて感じること



住宅の状況

- 窓や壁に結露が生じる
- 壁にカビが生えている
- 窓ガラスが複層ガラス^{*1}となっていない
- 平成10年までに建築された住宅^{*2}であり、過去、断熱改修をしていない

このような住宅にお住まいの方は断熱改修を検討しましょう



※1 ガラスが2枚以上となっているもの。詳しくは25ページ参照

※2 断熱性能の基準には、昭和55年基準、平成4年基準、平成28年基準(現行省エネ基準)があり、新しい基準ほど厳しくなっています。右表により、平成10年までに建てられた住宅は、現行省エネ基準より前の基準で建てられていると思われるため、断熱性能が低いと考えられます。

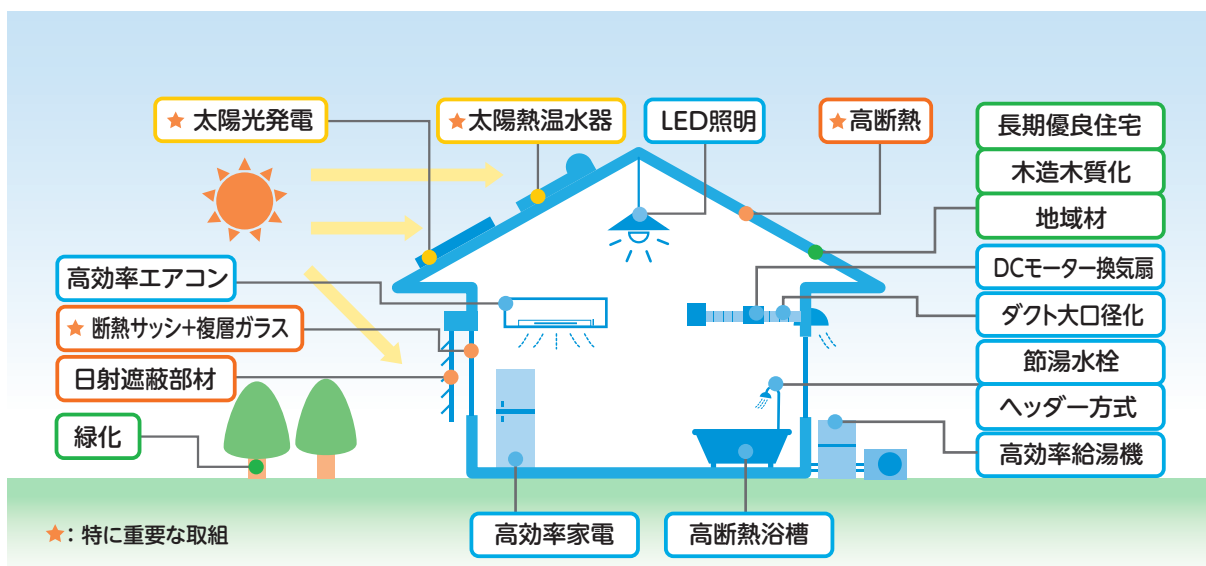
木造戸建住宅の建設年に応じた断熱性能の区分

断熱性能区分	建設年の区分			
	~S54 (~1979)	S55~H3 (1980~1991)	H4~H10 (1992~1998)	H11~ (1999~)
S55年基準未満	●	●		
S55年基準相当	●	●	●	
H4年基準相当			●	●
H4年とH28年基準の中間相当				}
H28年基準相当				●

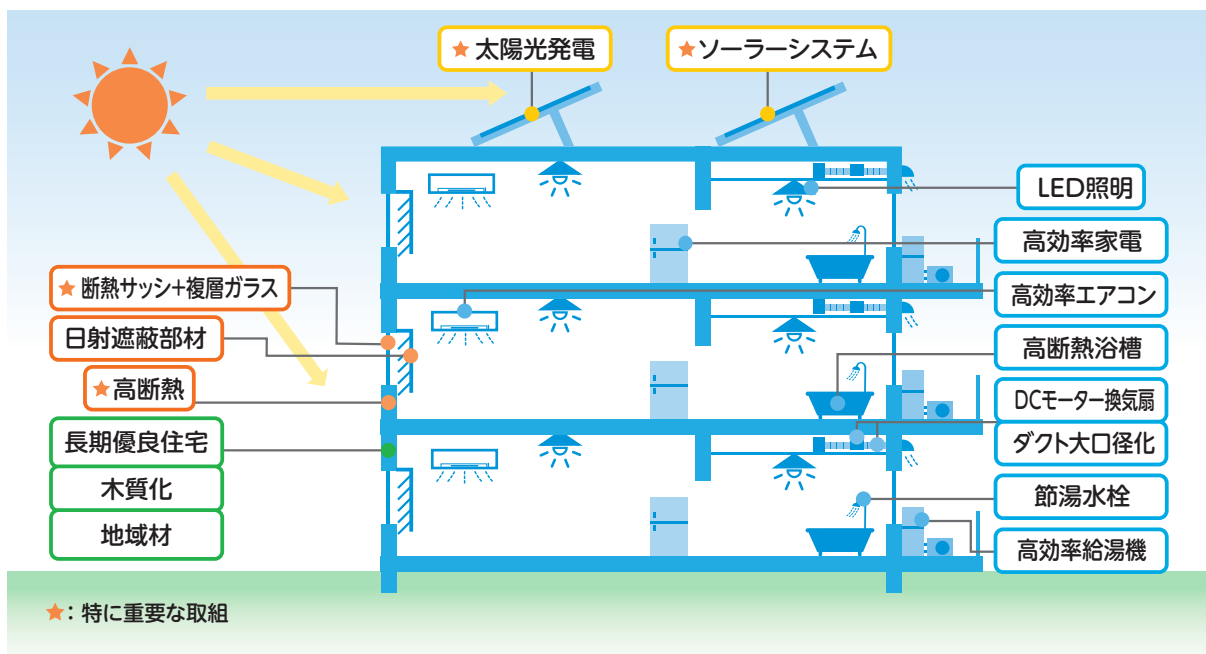
出典：改修版 自立循環型住宅への設計ガイドライン（一般財団法人 住宅・建築SDGs推進センター）

2050年のカーボンニュートラルの実現に向けてこれから目指すべき住宅をイメージし、「他人ごと」ではなく「自分ごと」として取り組んでいきましょう。

戸建住宅の取組イメージ



マンションの取組イメージ



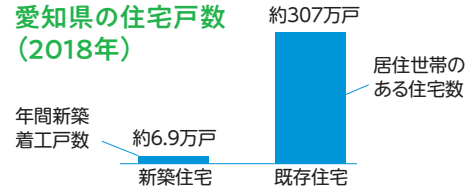
詳しい取組は
19ページからの
「技術ガイド編」を見てね

- 建物でできること
- 設備でできること
- 太陽エネルギーを活用してできること
- その他でできること

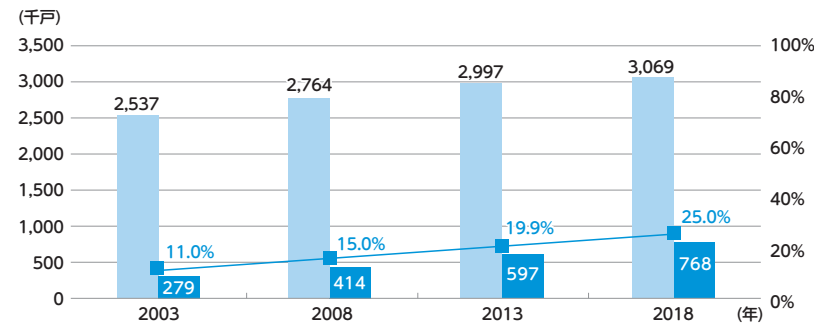
3 あいちの住宅は、どんなことをする必要がるの？

既存住宅は、省エネ改修^④を！

2050年カーボンニュートラルの実現のためには、愛知県では大量に存在する既存住宅の省エネ性能を向上させることが特に重要です。



愛知県の居住世帯のある住宅のうち、一定の断熱性能が確保された住宅の割合の推移



一定の断熱性能が確保された住宅の割合は、2018年で25%に留まっています

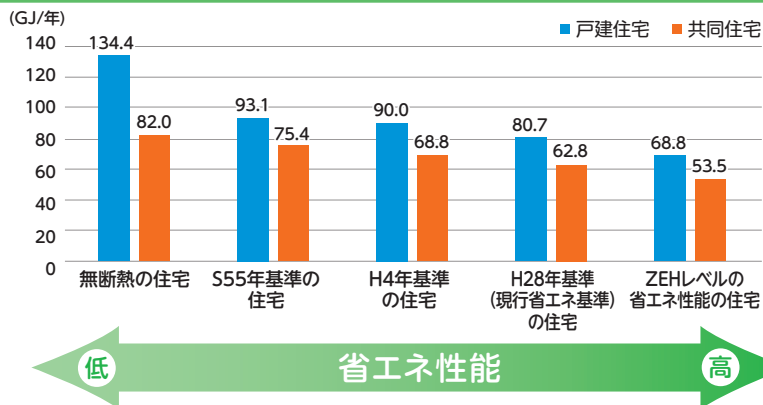


■ 居住世帯のある住宅 ■ 一定の断熱性のある住宅 ■ 居住世帯のある住宅のうち、一定の断熱性のある住宅の割合

注) 一定の断熱性とは「二重以上のサッシまたは複層ガラスの窓」がすべてもしくは一部の窓にあること。

資料: 住宅・土地統計調査

省エネ性能が低い住宅と高い住宅のエネルギー消費量



住まい方の工夫のみでは省エネ対策に限界があるよ
 今後は、省エネ改修や省エネ性能が確保された住宅への住み替えを進めてね



注) 建築物省エネ法に基づく省エネ計算により、戸建住宅 (住戸規模120㎡)、共同住宅 (住戸規模70㎡) として、戸当たりの設計一次エネルギー消費量を算出。

資料: 脱炭素社会に向けた住宅・建築物の省エネ対策等のあり方検討会 第5回資料4(国土交通省)

新築住宅は今後、ZEHレベルの省エネ性能が標準に！

2030年までに住宅の省エネ基準^④※1がZEHレベルに引き上げられることから、これからはZEHレベルの省エネ性能が標準になります。これを見据えて、新築住宅については、ZEHレベル以上の省エネ性能を選択することが望めます。

※1 省エネ基準については62ページ参照

〈参考〉二酸化炭素排出量の削減について

既存住宅の省エネ改修や新築住宅の省エネ性能の向上に取り組むことは、家庭部門の二酸化炭素排出量の削減につながり、地球温暖化の防止に寄与します。

どのくらいの二酸化炭素排出量が削減されるのか、国の試算^{※2}では、2030年度には日本全体で

既存住宅の省エネ改修により、約223万トン

新築住宅の省エネ性能の向上により、約620万トン

となっています。

国の試算結果を愛知県分に按分^{※3}すると、2030年度には

既存住宅の省エネ改修により、約12.8万トン

新築住宅の省エネ性能の向上により、約35.5万トン

となります。

みんなで住宅の省エネ性能の向上に取り組んで、二酸化炭素排出量の削減に努めましょう。

※2 国の「地球温暖化対策計画」(令和3年10月22日閣議決定)における試算 ※3 国の試算結果を、全国と愛知県の世帯数比率により按分



コラム 建築物省エネ法 — 地球環境にやさしい建物へ導く —

建築物省エネ法とは、正式名称を「建築物のエネルギー消費性能の向上等に関する法律」といい、私たちの日常生活においてエネルギーを節約し、地球環境にやさしい建物の普及促進を目的としています。

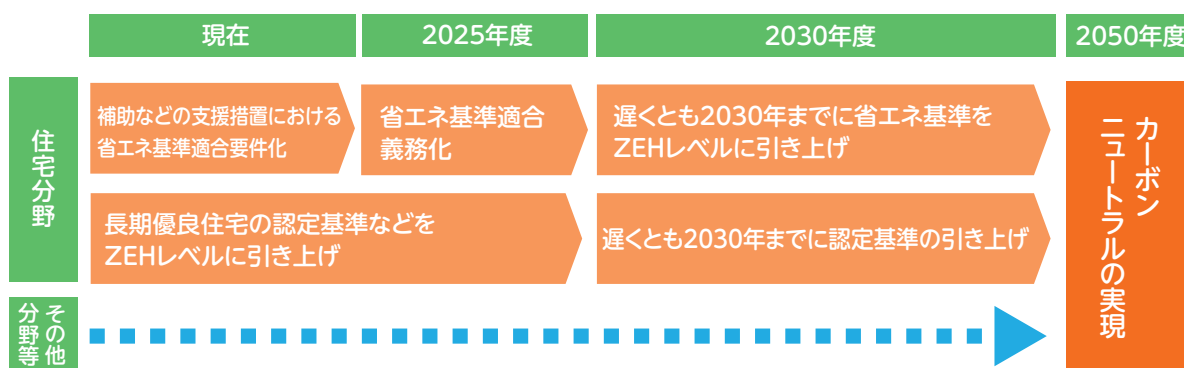
2017年4月に施行された規制措置によって、床面積の合計2,000㎡以上の非住宅建築物は、新築時などに省エネ基準への適合が義務付けられ、適合しないと建築工事を始めることができなくなりました。

また、2019年の法改正により、2021年4月から床面積の合計300㎡以上の非住宅建築物も対象となりました。

さらに、2022年の法改正により、対象は2025年4月(予定)から住宅を含む全ての建築物に拡大されます。

国のロードマップでは、**2030年までに住宅の省エネ基準をZEHレベルに引き上げる**と掲げているため、今後は**ZEHレベルの省エネ性能が標準**となります。

ロードマップ



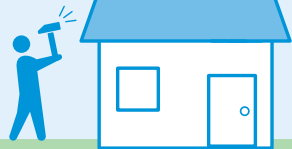
資料：脱炭素社会に向けた住宅・建築物における省エネ対策等のあり方・進め方に関するロードマップ(国土交通省・経済産業省・環境省)

これからは、既存住宅、新築住宅ともに省エネ性能の向上が求められることから、既存住宅の省エネ性能を省エネ改修により向上させたり、新築住宅でZEHレベル以上の省エネ性能を選択することは、**資産価値を高めると**考えられています。

カーボンニュートラルに向けたあいちの住宅の取組の方向性

第1に…

既存住宅は、
省エネ改修を！



第2に…

新築住宅は、
ZEHレベル以上の
省エネ性能の確保を！



家庭部門の二酸化炭素排出量の削減へ！



CASBEEあいち [戸建] で知る住宅づくりの新しい基準

愛知県では、総合的な環境性能に優れた戸建住宅の普及を推進するために、「CASBEEあいち[戸建]」という評価制度を2009年から運用しています。

CASBEEあいち[戸建]では、建物の環境品質Qと建物が外部環境に与える環境負荷Lの2つの側面で評価します。

CASBEEあいち[戸建]では、表計算ソフトを用いて評価した結果を「建築物環境配慮計画書」として愛知県に提出します(手数料はなし)。

愛知県では、提出された計画書の内容を確認し、必要に応じて環境性能の向上に向けた指導助言などを行います。また、これらの手続きが完了した計画書の一部を愛知県建築指導課のホームページで公表しています。

なお、CASBEEあいち[戸建]で高い評価を得た場合、住宅ローンの金利がお得になる金融機関もあります。詳しい情報は、愛知県建築指導課のホームページを確認してください。



評価項目のイメージ

Q 環境品質 (Quality) ~人へのやさしさ~

Q1 室内環境

暑さ・寒さ・明るさなど



Q2 サービス性能

広さ・バリアフリー・
維持管理のしやすさなど



Q3 室外環境

緑化・まちなみ・
景観への配慮など



L 環境負荷 (Load) ~環境へのやさしさ~

LR1 エネルギー

省エネ・自然エネルギーの
利用など



LR2 資源・マテリアル

使用材料・リサイクルなど



LR3 敷地外環境

騒音・振動・
インフラへの負荷など



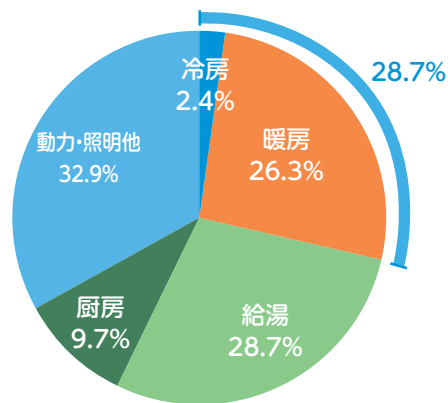
4 特に重要な取組はこれだ!

断熱と太陽エネルギー活用で、良質な住宅ストックを次世代へ!

2021年度における家庭でのエネルギー消費量のシェアは、冷暖房28.7%、給湯28.7%、厨房9.7%、動力・照明他(家電機器の使用など)32.9%となっています。

よって、エネルギー消費量の削減には、シェアの大きい冷暖房、給湯、動力・照明他について、省エネ対策を実施する意義が大きく、それぞれ次のような対策が考えられます。

家庭でのエネルギー消費量の用途別シェア



資料: 令和4年度エネルギーに関する年次報告 (資源エネルギー庁)

冷暖房

▶ 断熱性能や日射遮蔽性能の向上、高効率機器の採用など

給湯

▶ 太陽熱温水器などの太陽エネルギー活用、高効率機器の採用など

動力・照明他

▶ 高効率機器の採用など

これらの対策のうち、断熱性能の向上は、冷暖房エネルギーの削減に加え、健康の維持や快適性の向上にもつながるため、最優先で取り組むべきです。

また、愛知県は日射量が多く※、太陽エネルギーのポテンシャルが高い地域であることから、給湯エネルギーが削減可能な太陽熱温水器やソーラーシステム、エネルギー収支をゼロにするために必要となる太陽光発電の導入など太陽エネルギー活用も特に重要な取組です。

※ 日射量については13ページ参照

ポイント1 断熱性能を向上させましょう! (22~29ページ参照)

断熱性能が低い既存住宅は、隙間も多いため、断熱改修とともに隙間風を防止する漏気改修も行いましょう

竣工後に断熱性能を向上させようとする余分な手間がかかり、工事費が割高になることから、新築時に将来を見据えてしっかりと断熱しておきましょう



ポイント2 太陽エネルギーを活用しましょう! (44~49ページ参照)



太陽熱温水器などの導入によって給湯エネルギーを削減することができるよ

住宅でのエネルギー収支をゼロにするために太陽光発電を導入してね



災害から大切な家族や生活を守るための住宅づくり —住宅のレジリエンス—

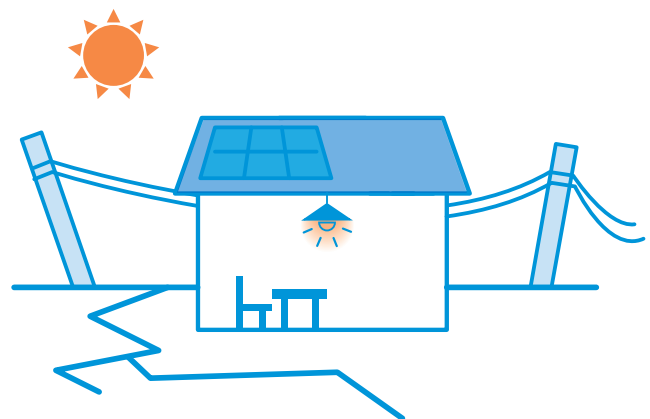
最近、気候変動に伴う豪雨の頻発化など、自然災害のリスクが高まっています。このような中で私たちは、普段は快適に過ごすことができ、災害時には家族や生活を守って安心して暮らせるように、また、災害後には被害を抑え、素早く回復できるようにするために、住宅のレジリエンスを高めることが重要です。

レジリエンス(resilience)とは「しぶとさ、強靭さ、弾性、回復力」などを意味する言葉です。

一般社団法人日本サステナブル建築協会では、住宅の健康リスクや災害リスクについての認識を高めるために「CASBEE-レジリエンス住宅チェックリスト」を公開しています。このチェックリストは、現在の住宅にどのようなリスクがあるのを知り、どのような備えが必要かを「気づいて」もらうことを目的としています。

チェックリストでは、平常時、災害発生時、災害後の3つの観点から住宅のレジリエンス度を評価し、10分程度で自分の住宅のレジリエンス度を確認することができます。

住宅のレジリエンスを高めることは、安心で快適な生活を守るために欠かせません。安心して過ごせる住宅を作るために積極的に取り組みましょう。



5 あいちの特色を知ろう!

あいちの特色をふまえた取組を!

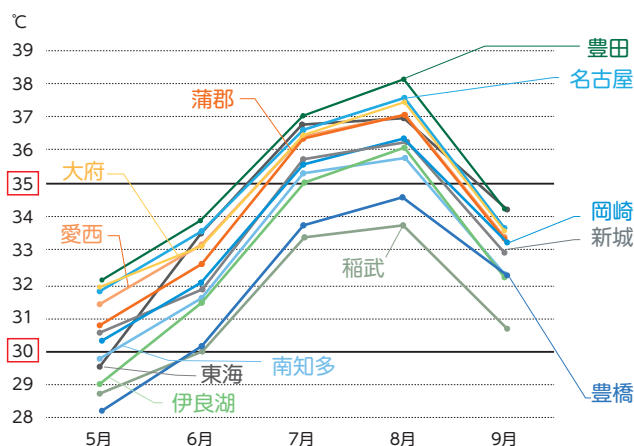
あいちには「気温」「日射量」「敷地面積」の3つに特色があります。

気温

気象庁の気温データから、冷房期および暖房期に必要なことを考えてみましょう。

冷房期

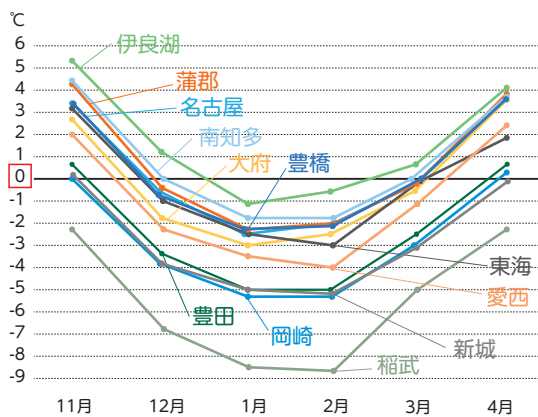
- 名古屋、愛西、大府、豊田、岡崎、蒲郡、新城
 - ▶ 5月～9月の最高気温が30℃超え(7月および8月は35℃超え)
- 東海、南知多、伊良湖
 - ▶ 6月～9月の最高気温が30℃超え(7月および8月は35℃超え)
- 豊橋、稲武
 - ▶ 6月～9月の最高気温が30℃超え(35℃超えなし)



県内全ての地域において、冷房が必要と考えられるため、住宅の日射遮蔽性能や断熱性能を向上させて、冷房エネルギーを削減することが必要です。

暖房期

- 名古屋、愛西、東海、大府、豊田、南知多、蒲郡、岡崎、新城
 - ▶ 12月～3月の最低気温が0℃以下
- 豊橋
 - ▶ 12月～2月の最低気温が0℃以下
- 伊良湖
 - ▶ 1月および2月の最低気温が0℃以下
- 稲武
 - ▶ 11月～4月の最低気温が0℃以下



県内全ての地域において、暖房が必要と考えられるため、住宅の断熱性能を向上させて、暖房エネルギーを削減することが必要です。

奥三河地方においては、暖房設備の稼働時間が長いと考えられることから、暖房エネルギー削減のために、冬期に南面の窓から日射取得^④することが有効です。

日射量

日射が多いという特色を活かしましょう

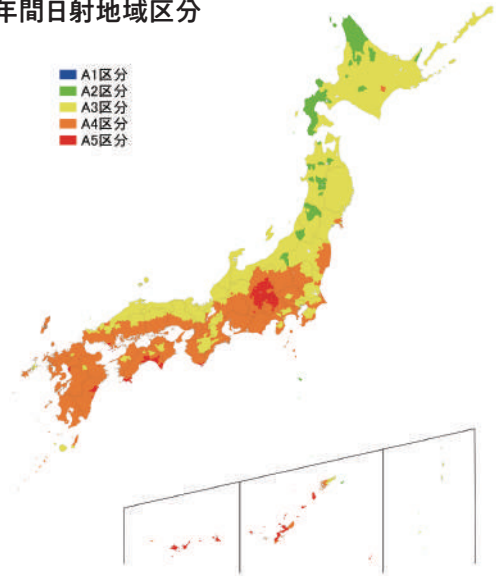
日本は地域によって日射量が異なるため、全国を5つの区分(A1区分(日射が非常に少ない)からA5区分(日射が非常に多い))に分類しています。

愛知県は、**県内全ての地域で日射の多いA4区分に該当し、太陽熱温水器などの集熱量、太陽光発電の発電量が多い地域**であるため、**これら設備を積極的に導入^{※1}することが望まれます**。なお、夏期における建物内の日射の侵入は、室温を上昇させます。冷房エネルギーを削減するためには、**日射遮蔽^{※2}が必須**となります。

※1 詳しくは44～49ページ参照

※2 詳しくは30～33ページ参照

年間日射地域区分



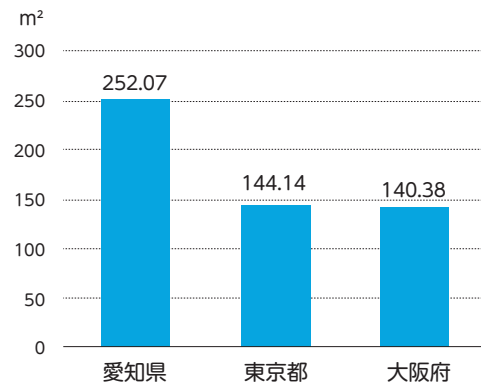
出典：住宅の省エネルギー設計と施工2023 4～7地域版
(一般社団法人 木を活かす建築推進協議会)

敷地面積

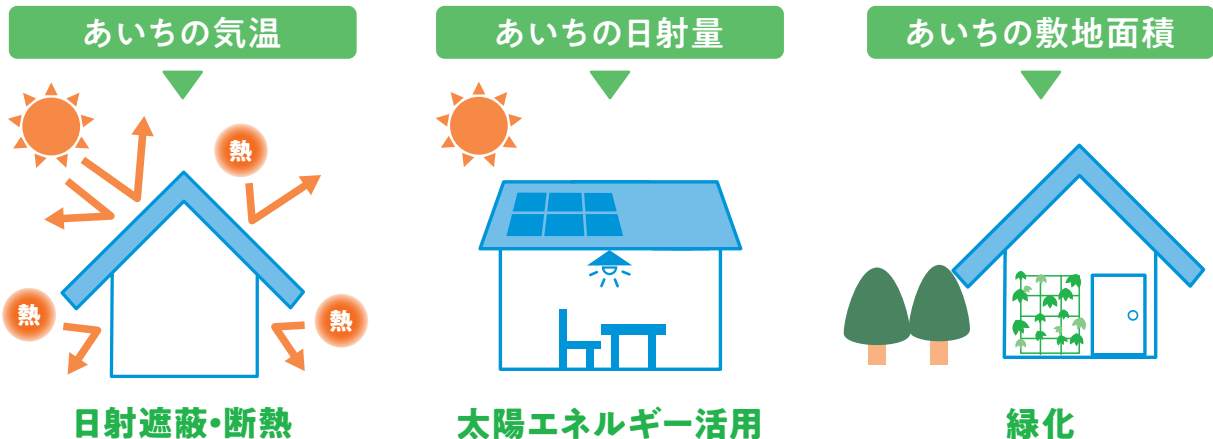
敷地の広さを活かしましょう

戸建住宅(持ち家)の1住宅当たりの敷地面積について、三大都市圏に含まれる愛知県、東京都、大阪府で比較すると、愛知県は約252㎡、東京都は約144㎡、大阪府は約140㎡であり、**愛知県が最も広くなっています**。また、愛知県の戸建住宅の1住宅当たりの建築面積の利用率は約33%となっており、敷地内で住宅が建築されていない空間が約67%もあるため、この広い空間を**積極的に緑化**することが望まれます。

1住宅当たりの敷地面積



資料：平成30年住宅・土地統計調査



6 住宅の省エネ性能が高いとメリットはあるの？

省エネ性能を向上させるには費用がかかりますが、「健康の維持」「快適性の向上」「光熱費の削減」といったメリットがあるため、費用をかけるだけの価値は十分にあります。

〈健康の維持〉

高断熱で自分や家族の命を守る！

夏期

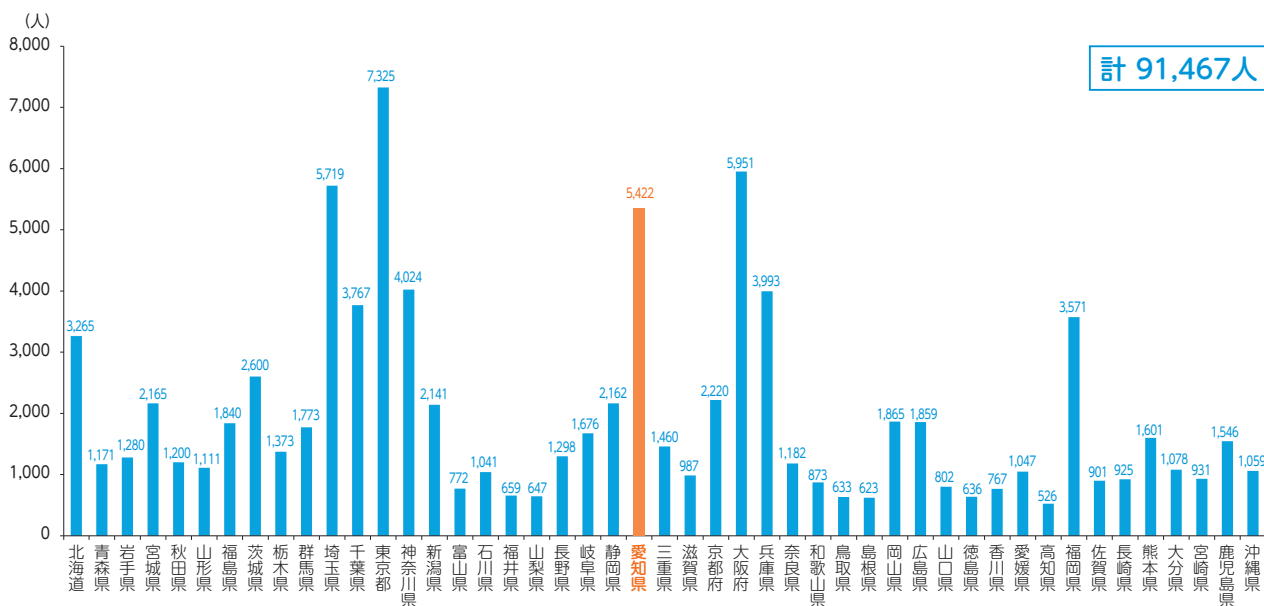
2023年夏は、全国で約91,000人の方が熱中症により救急搬送されています。

愛知県では、全国で4番目に多い約5,400人の方が救急搬送されており、そのうち約1,800人の方が住宅で熱中症になっています(熱中症の発生場所で最も多いのが住宅です。)

熱中症の予防には、水分補給やエアコンの使用も重要ですが、住宅の断熱性能を向上させて、屋外からの熱を入りにくくし、室温上昇を抑えることも重要です。



熱中症による救急搬送状況(2023年)「都道府県別救急搬送人員」



資料：令和5年(5月から9月)の熱中症による救急搬送状況(総務省消防庁)

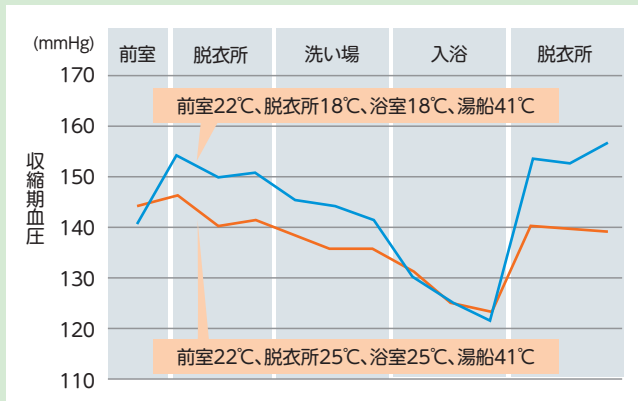
冬期

冬期に室温が低いと体にストレスがかかり、健康への影響が大きくなると言われています。

住宅の断熱性能を向上させることにより、冬期の室温が上昇して体へのストレスが減少し、健康への影響が小さくなると考えられます。

- ① 部屋と部屋の温度差が大きいと、移動時に血圧が大きく変動して、ヒートショック^用を引き起こす可能性があります。

温度差による収縮期血圧の変化



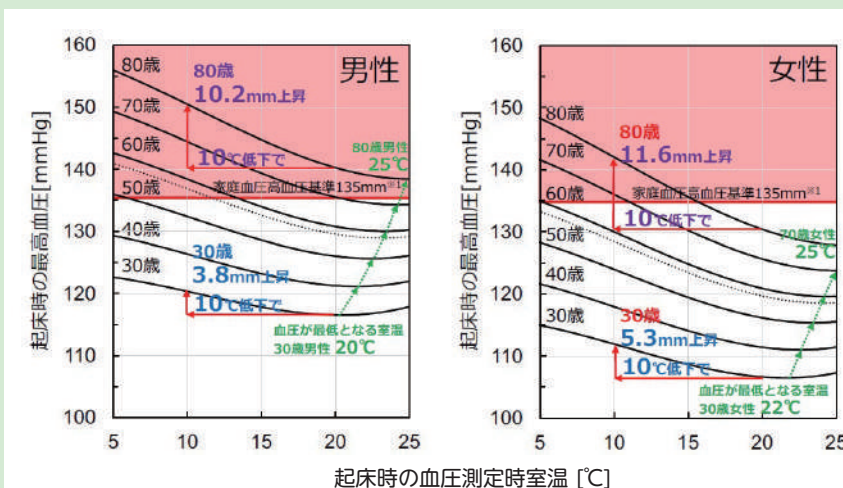
出典：良好な温熱環境による健康生活ハンドブック（一般財団法人 ベターリビング）

寒さにより血管が収縮し
血圧が上昇するため、
暖かい部屋から寒い部屋へと
移動する過程で
血圧が大きく変動します



- ② 部屋が寒いと、起床時に血圧が高くなる傾向があります。

起床時の血圧変動



高齢者ほど、女性ほど、
室温が低いことによる
血圧上昇量が
大きくなっています



※1 JSH2019(日本高血圧学会;高血圧治療ガイドライン2019)

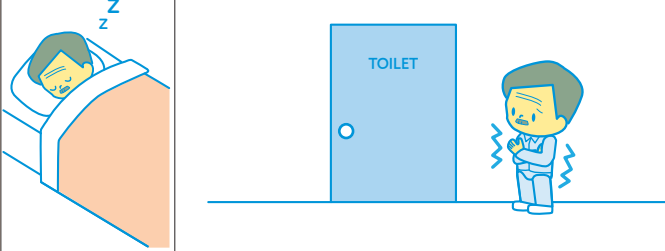

※2 その他の変数は、本調査で得られた平均的な男性または女性のデータをモデルに投入
野菜(よく食べる)、運動(なし)、喫煙(なし)、飲酒(男性:毎日/女性:ほとんど飲まない)、降圧剤(なし)
BMI/塩分チェック得点/睡眠の質/睡眠時間/前夜の飲酒有無(男女それぞれ調査対象者の平均値を投入)
外気温/居間寝室温度差(全調査対象者の平均値を投入)

出典：住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査第7回報告会資料

③ 居間が寒いと、夜間の頻尿リスクが高くなる傾向があります。

就寝前の居間室温の違いによる過活動膀胱^{かつどうぼうこう}の症状を有する人の割合

	居間が暖かい	居間が寒い		
就寝前の居間室温	18℃以上	15℃以上	12℃以上	12℃未満
過活動膀胱の症状を有する人の割合	1.00倍	1.23倍	1.29倍	1.44倍

資料：住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査第7回報告会資料

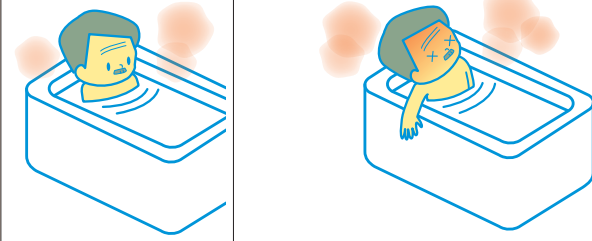
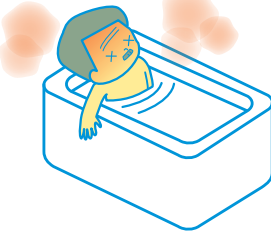
夜間、トイレに起きることで、睡眠の質が低下してしまうよ



④ 居間や脱衣所が寒いと、入浴中の事故リスクが高くなる傾向があります。

居間・脱衣所室温の違いによる熱め入浴をする人の割合

	家全体が暖かい	居間だけが暖かい	家全体が寒い
居間室温	18℃以上	18℃以上	18℃未満
脱衣所室温	18℃以上	18℃未満	18℃未満
熱め入浴をする人の割合	1.00倍	1.47倍	1.66倍

資料：住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査第7回報告会資料

入浴事故は、熱めの湯に長く入浴することが原因の一つとされているよ

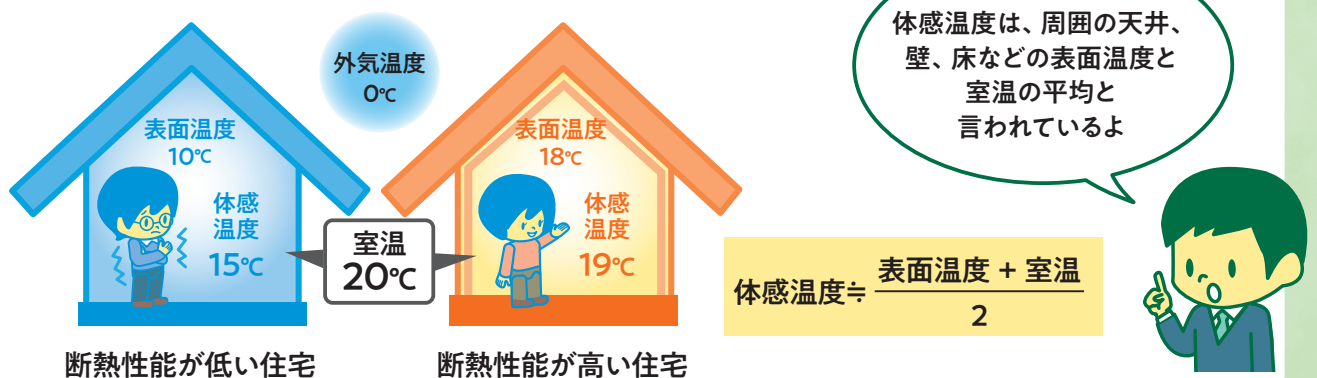


〈快適性の向上〉

高断熱と日射遮蔽で夏も冬も快適に！

冬期に「室温は低くないのに、何となく寒く感じる」、夏期に「室温は高くないのに、何となく暑く感じる」のは、室温と体感温度に大きな差があるためです。

住宅の断熱性能や日射遮蔽性能を向上させることにより、天井、壁、床などの表面温度は建物外の暑さ寒さの影響を受けにくくなるため、夏期は同じ冷房設定温度でも涼しく感じ、冬期は同じ暖房設定温度でも暖かく感じることができ、**快適性が向上**します。



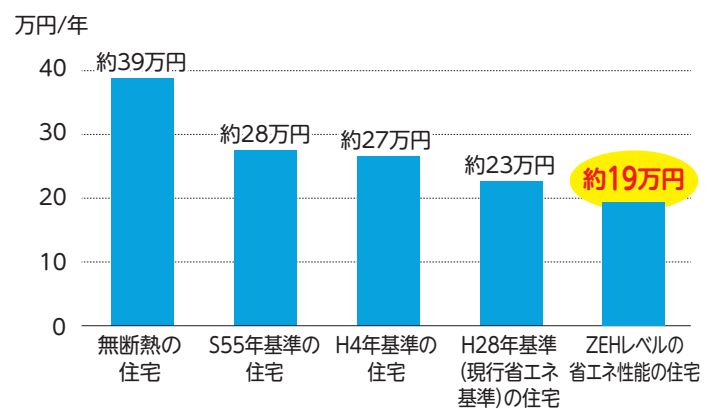
〈光熱費の削減〉

省エネ性能の向上で光熱費を削減！

住宅の省エネ性能が高いほど光熱費が安くなるため、既存住宅における省エネ改修や新築住宅における省エネ性能の高い住宅の選択は、**光熱費の削減**につながります。

名古屋市などの地域区分6※2の地域で年間光熱費を試算すると、無断熱の住宅では約39万円かかるのに対し、省エネ性能の高い住宅ほどその費用は安くなり、ZEHレベルの省エネ性能の住宅では約19万円とほぼ半分の費用となります。

年間光熱費の比較(地域区分6の場合)



■試算条件

・木造2階建て住宅延べ面積120㎡プランで全国統一の燃料単価(電気27円/kWh、都市ガス156円/㎡)で試算(愛知県建築局)
・試算結果であるため、実際の光熱費を保証するものではありません。

※2 地域区分については62ページ参照

〈参考〉初期投資の回収について

住宅の省エネ性能を向上させるには、初期投資が必要となり、光熱費の削減という直接的な利益のみでは投資回収に長期間を要します。

一方、住宅の省エネ性能の向上は、建物内を良好な温熱環境にすることにつながるため、健康の維持が図られることが期待できます。健康の維持は医療費の削減につながり、医療費の削減という間接的な利益を考慮すると投資回収に要する期間は短縮されます。

現時点では、どの程度、医療費が削減されるか不明確です。間接的な利益を考慮した場合の投資回収に要する期間も不明確であるため、今後、明確になることが期待されます。

なお、省エネ性能の高い住宅などに対する補助制度があるため、ウェブサイトで検索したり、愛知ゆとりある住まい推進協議会が発行している「知って良かった住まいの知識」で確認したり、設計事務所や工務店などに相談すると良いでしょう。



愛知県住宅用地球温暖化対策設備導入促進費補助金 — 補助金活用で地球にやさしい設備を手にいれよう —

愛知県では、温室効果ガスの排出を抑制し、地球温暖化防止に寄与することを目的として、住宅用地球温暖化対策設備(太陽光発電、家庭用エネルギー管理システム(HEMS)、燃料電池、蓄電池、電気自動車等充給電設備(V2H)、太陽熱利用システム、ZEHに必要な高性能外皮等、断熱窓改修)を導入する個人に対し、市町村を通じてその経費の一部を補助しています。補助金を活用して、地球にやさしい設備を住宅に導入していきましょう。

募集期間や補助対象設備、補助対象者の要件は、市町村によって異なりますので、詳細はお住まいの市町村にお問い合わせください。

